

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和4年4月19日(火)

3. 調査の対象

泉佐野市立大木小学校 第6学年、全児童

実施児童数（ 11人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語、算数・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析(国語)

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は、全国をやや下回っている。平均正答数の全体的な分布は、全国と比べて上位層がやや少ない。

平均正答率(本校 61/泉佐野市 62/大阪府 64/全国 65.6)

2. 学力状況調査より(本校正答率/全国正答率)

国語	特徴がみられた設問	
<p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>○互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることは概ねできている。</p> <p>1四 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、<input type="text"/>でどのように話すかを書く (54.5/47.7)</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことに課題がある。</p> <p>3三ア 【文章2】の中の <u> </u> 部アを、漢字を使って書き直す(ろくが) (45.5/65.2)</p> <p>【書くこと】</p> <p>○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えたり、自分の文章のよいところを見付けたりすることに課題がある。</p> <p>3一 【文章2】の <input type="text"/>の部分で、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する (45.5/59.2)</p> <p>3二 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く (27.3/37.7)</p>	<p>【読むこと】</p> <p>○登場人物の行動や気持ち、相互関係などについて捉えることに課題がある。</p> <p>2一(1) 「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する (63.6/68.4)</p> <p>2一(2) 「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する (63.6/70.6)</p> <p>○人物像や物語の全体像を具体的に想像することに課題がある。</p> <p>2ニ 物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の <input type="text"/>A に入る内容を書く (54.5/68.3)</p> <p>○表現の効果を考えることに課題がある。</p> <p>2三 【山村さんの文章】の <input type="text"/>B に入る内容として適切なものを選択する (45.5/59.2)</p>	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	27.3	59.2	○	31.9
国語の勉強は大切だと思いますか	72.7	93.3	○	20.6
国語の授業の内容はよくわかりますか	81.8	84.0		2.2
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.9	91.8		0.9

- 「書くこと」「読むこと」の領域において、課題が多く見られる。
- 国語の勉強は好きだと感じている児童の割合が、全国平均と比べて低い。
- 国語の勉強は大切だと思っている児童の割合が、全国平均と比べて低い。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析(算数)

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は、全国を上回っている。平均正答数の全体的な分布は、全国と比べて上位層がやや多い。
平均正答率(本校 70/泉佐野市 61/大阪府 63/全国 63.2)

2. 学力状況調査より(本校正答率/全国正答率)

算数	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】 ○乗法や除法，最小公倍数の求め方等については概ね理解できている。</p> <p>1(1) 1050×4 を計算する (100/92.4) 1(2) 14と21の最小公倍数を求める (90.9/72.2) 1(3) カップケーキ7個分の値段を，$1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く (81.8/76.0)</p> <p>○示された場面において，目的に合った数の処理の仕方を考察できることに課題がある。</p> <p>1(4) 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ (18.2/34.8)</p> <p>【図形】 ○図形を構成する要素に着目して，図形の意味や性質，構成の仕方については概ね理解できている。</p> <p>4(1) 示されたプログラムについて，正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す (63.6/48.8) 4(2) 長方形のプログラムについて，向かい合う辺の長さを書く (90.9/83.2) 4(3) 辺の長さや角の大きさに着目し，ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ (90.9/66.5) 4(4) 示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ (63.6/57.6)</p>	<p>【変化と関係】 ○割合や比例の関係等についてはおおむね理解できている。</p> <p>2(2) 果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの，果汁の量を書く (81.8/64.6) 2(3) 示された場面のように，数量が変わっても割合は変わらないことを理解し，正しい割合を選ぶ (27.3/21.4) 2(4) 果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの，飲み物の量の求め方と答えを書く (63.6/48.0)</p> <p>【データの活用】 ○分類整理されたデータを基に，目的に応じてデータの特徴を捉え考察することは概ねできている。</p> <p>3(2) 分類整理されたデータから，全員の希望が一つは通るように，遊びを選ぶ (90.9/63.9)</p> <p>○目的に応じてグラフを選択し，必要な情報を読み取ることに課題がある。</p> <p>3(3) 1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び，そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ (54.5/66.8)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	45.5	62.5	○	17.0
算数の勉強は大切だと思いますか	100	94.2	◇	5.8
算数の授業の内容はよくわかりますか	72.8	86.2	○	13.4
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.9	93.3		2.4
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	54.6	69.3	○	14.7
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	63.7	80.4	○	16.7
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	45.5	76.8	○	31.3
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	81.8	85.7		3.9

- 「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のそれぞれの領域において平均正答率が全国平均を上回っており、ほとんどの設問で正答率が全国平均を上回っている。
- 目的に応じた処理や選択について課題がある。
- 算数科の学習内容について、自ら考えを巡らせることに課題がある。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析(理科)

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は、全国を上回っている。平均正答数の全体的な分布は、全国と比べて上位層がやや多い。
平均正答率(本校 67/泉佐野市 58/大阪府 60/全国 63.3)

2. 学力状況調査より(本校正答率/全国正答率)

理科	特徴がみられた設問
<p>A区分</p> <p>【「エネルギー」を柱とする領域】</p> <p>○自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことに課題がある。</p> <p>3(3) 鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く (63.6/68.9)</p> <p>○実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することは概ねできている。</p> <p>3(4) 問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く (45.5/35.1)</p> <p>【「粒子」を柱とする領域】</p> <p>○器具の名称等については概ね理解できている。</p> <p>2(1) 一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く (90.9/67.8)</p> <p>○自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することは概ねできている。</p> <p>2(4) 凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題をとく (45.5/39.3)</p>	<p>B区分</p> <p>【「生命」を柱とする領域】</p> <p>○問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことに課題がある。</p> <p>1(1) 見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ (81.8/92.9)</p> <p>○昆虫の体のつくりを概ね理解できている。</p> <p>1(3) 昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ (81.8/73.8)</p> <p>【「地球」を柱とする領域】</p> <p>○観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことは概ねできている。</p> <p>4(3) 結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのか選ぶ (54.5/45.5)</p> <p>○水是水蒸気になって空気中に含まれていることを概ね理解できている。</p> <p>4(4) 鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く (72.7/62.0)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか	63.7	79.7	◇	6.0
理科の勉強は大切だと思いますか	81.8	86.5		4.7
理科の授業の内容はよくわかりますか	90.9	88.5		2.4
理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	72.7	67.9		4.8
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	45.5	77.2	○	31.7
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	27.3	26.6		0.7
理科の授業では、自部の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	54.6	78.0	○	23.4
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	63.7	84.9	○	21.2
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返っていますか	18.2	72.2	○	54.0

- 「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」それぞれを柱とする領域において平均正答率が全国平均を上回っており、ほとんどの設問で正答率が全国平均を上回っている。
- 理科の学習と生活との関連についての意識が低い。
- 観察や実験について、自ら考えを巡らせることに課題がある。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析(児童質問紙より)

児童質問紙調査より、本校児童の意識調査を4択(1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない)で選ぶものについては、選択肢1と2は同じ肯定的な回答と捉えて回答率を示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【自己有用感・規範意識】	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分には良いところがある」「夢や目標を持っている」など自己に対して肯定的にとらえる児童の割合が全国に比べ低い。 ○「学校に行くのが楽しい」と思っている児童の割合が全国に比べ低い。 ○他者の意見を最後まで聞くことや違う意見を受容することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分には、よいところがあると思いますか (63.7/79.3) ○将来の夢や目標を持っていますか (72.7/79.8) ○学校に行くのは楽しいと思いますか (63.7/85.4) ○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか (54.6/73.5) ○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか (54.6/80.1)
【家庭生活の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ○規則正しく起床できているが、就寝時刻にはやや課題が見られる。 ○スマートフォン等の使い方については、家庭でのルールが概ね守られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか (72.8/81.5) ○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか (100/90.4) ○携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか (100/92.4)
【家庭学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習を自ら計画的に行うことに課題が見られる。 ○2時間以上家庭学習をしている割合が、全国に比べ高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (63.7/71.1) ○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり、2時間以上勉強をしますか (45.5/25.1) ○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強をしますか (45.5/26.2)
【5年生までに受けた授業の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ○授業で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたと思う児童の割合が全国に比べ低い。 ○作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていたと思う児童の割合が全国に比べ多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか (63.7/72.2) ○自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか (81.8/68.4)

本校の取組

◎これまでの取組

四方を山々に囲まれた静かな農山村である大木地区は、寺社やため池・用水等、歴史ある施設が多くあり、大阪府の重要文化的景観に選定されている。そのような自然環境を生かし、「わらび採り」や「田植え・稲刈り」「川探検」「大木探検」などの自然体験活動を教育活動に取り入れ、子どもたちに大きな感動を与え、自然科学への興味・関心を高め、豊かな感性を育ててきた。

- ・総合的な学習の時間や生活科の時間を活用して、縦割り班活動にとりくんできた。異年齢の関わりが増え、高学年は低学年と接する場面で自己有用感や自尊感情を高めることができ、低学年は高学年と接することで身近な見本・お手本から学ぶことができ、すべての子どもたちが積極的な姿勢・意欲を身につけることが期待できる。
- ・始業前の時間を利用した朝学習や読書、1～3年生の放課後「まなびんぐ」など、授業以外の時間を活用したとりくみを進めてきた。
- ・昨年より1人1台の端末を活用してさまざまな教材を提示するなど、視覚的に興味を引き出すようなICTを活用した授業を積極的に行っている。また、少人数クラスであり、お互いに意見を述べ合う時間や発表する時間は必然的に多くなっている。
- ・学校全体で「話す・聞く」の領域について、重点的にとりくんできた。年間を通して、国語科を中心に「話す・聞く」を学年ごとに系統立て、すべての教科を含めて横断的に丁寧に積み上げて、それを「大木たんけん」や「大木まつり」等の学校行事や、たてわり班活動などに活かしてきた。
- ・道徳科の授業を中心にしながら、さまざまな学習場面で、子どもたちが多様な意見や考えに触れたり、気づいたりするような教師によるしかけや工夫を増やしている。授業の中で、教師が意識的に子どもの意見をひろい上げたり、ペアやグループでの話し合い活動を積極的に行ったりすることで、子ども主体の学習を進めてきた。

◎これからの取組

上記の「これまでの取組」を継続しながら、どの教科においても引き続き「できた」という達成感が持てるような授業づくりを行い、自己肯定感を高めるとともに、学校での学習と自分たちの生活との関連に着目すること等で、子どもたちの学習意欲を喚起し、主体的に学習にとりくむことができるようにしたい。

また、自分の考えを書いたり話したりする言葉の力(コミュニケーション能力)を育てるために、国語科を中心として以下のことにとりくむ。

(国語)

- ・子どもが書きたいと思える材料集め
- ・表現方法の習得
- ・表現活動の充実

(算数)

- ・朝学習による基礎基本の定着及び前学年までの学習の復習
- ・算数の学習と生活とのかかわりを意識した授業づくり
- ・表現活動の充実

(理科)

- ・理科の学習と生活とのかかわりを意識した授業づくり
- ・観察、実験活動の充実
- ・表現活動の充実

(その他)

- ・学習規律の徹底等、学習環境の整備
- ・ICT機器の活用
- ・考えをまとめる活動の充実